

平成28年度

「共生型地域福祉拠点」推進セミナー



NPO法人夢の樹オホーツク 共生型住宅

平成28年12月16日

NPO法人夢の樹オホーツク

概要

目的: 誰もが尊厳をもって地域のなかで暮らしていくことのできるまち育て
※福祉は手段で、目的ではない。

経緯: ・平成14年2月、(財)さわやか福祉財団の研修に参加。2025年(平成37年)問題に向けた活動の理念と手法を学ぶ。

・同年、学校が週休2日制を導入。障がいを持つ子の居場所づくりが課題となり、保護者が中心となって設立準備。

・同年10月16日、NPO法人「夢の樹オホーツク」認証。

事業: 就労継続支援B型・生活介護・居宅介護・相談支援

インフォーマルサービス: 地域通貨たすけあい・福祉有償運送

会員: 57人(平成28年4月1日)

NPO法人とは

その前に

- NPO“Nonprofit Organization”⇒「民間非営利組織」
 - ・「民間」とは、「政府に属さない」こと。
 - ・「非営利」とは、利益を挙げてはいけないということではなく「利益があがっても構成員に配分しないで、団体の活動目的を達するための費用に充てる」こと。
 - ・「組織」とは、「社会に対して責任ある体制で継続的に存在する人の集まり」と説明できます。
- ※ボランティア(個人の裁量)とNPO(組織のミッション)の違い

地域通貨(億縁券) 1時間800億縁

支援ツール

- 時間通貨の一種。サービスの内容や量に関係なく、誰にでも公平にある「時間」を単位に、サービスのやりとりを支援するツール(道具)。

※医師の健康相談1時間と、子どもが留守番している1時間



15分



30分



1時間

1億縁=1円、ただし円に換金するときは25%を任意の団体等に寄付していただきます。
最低賃金以下の報酬

共生型住宅のはじまり



北村ハウス

きっかけ

- ・平成17年、3人の障がい者とスタッフ1人がルームシェア開始。
 - ※家賃5万円。4人各1万円、法人が1万円を負担。
 - ※理念が統一されていたので、当たり前のこととして取り組む。
 - ※壮絶なバトルの日々。スタッフは一人、二人と去っていく…
 - ※いつしかお互いを思いやる心が育ち、問題行動が減少。
 - ※どんな障がいでも、支援は可能との思いが広がっていく。
 - ※グループホームよりも、自由度の高い共生型を身を以て実践。
 - ※「地域介護・福祉空間整備等交付金」活用は、なんのためらいもなく申請。

平成20年4月開設

ふれあい@夢の樹ホーム 天都山

常駐スタッフはボランティア

共生型住宅
1

1



2



1. 居室: 7室(6畳)
 2. 地域開放用サロン
 3. 住居者用サロン
 4. 多目的スペース
 5. キッチン
- ※地域生活定着支援対象者受入

3



4



5



地域生活定着支援

事例
1-1

平成28年度地域生活定着促進事業推進会議inとまち 平成28年11月24日 資料より

《1年未満の再犯》

[全国:平成20年犯罪白書・平成18年特別調査]

全体	40.5%
知的障がい者	69.2%
高齢者	49.3%

《定着支援対象者の再犯(過去5年間)》

[調査実施時期:平成27年度]

[調査の対象:全国45地域生活定着支援センター]

[福祉的支援対象者:4,493人]

再逮捕	8.3% 373人
再逮捕されたが支援により再入所を回避	再逮捕者の28.7% 107人

対象者

1. 高齢であり、又は身体障がい、知的障がい、精神障がいがあると認められること
2. 矯正施設退所後の住居がないこと
3. 矯正施設退所後に自立生活を営む上で、福祉的サービスを受けることが必要であること
4. 地域生活定着支援センターの支援を本人が希望していること

Aさん

事 例
1-2

- 60代 男性 満期出所
- 小中学は特殊学級。
- 中卒後は道内各地で板金工として就労。
- 腰を痛め、実家に戻って生活。生活保護受給。
- 姉夫婦が住みつき(自宅は別にある)、父母の年金支給日や保護費の支給日に、お金を巻き上げていく。東京で働けと言われたが、東京は怖いところだと聞いていたので不安になり、宿泊した旅館で窃盗。

本当の意味での居場所

事例
1-3

- 地域生活定着支援センターからの照会と面談
- 就労継続支援B型 パンの製造 清掃作業 ⇒ 褒められる
- ふれあい@夢の樹ホーム 除雪 清掃作業 ⇒ 褒められる
// // ⇒ 感謝される
- // // 他の障がい者の見守り ⇒ 感謝される
- 他の障がい者との接触 ⇒ 肌の触合い⇒多幸感・存在意義

人に褒められ、人から感謝され、

自分を必要としてくれている人たちの

存在を感じたときに、本当の居場所が見つかる。

居酒屋 & 試写室

事例
2-1

・持ち込み居酒屋

- ※地域住民が「持ち込み」で飲んでいく。
- ※話題の中からコンサートや落語会などの企画が持ち上がり、実現している。

・試写室

- ※多目的スペースの窓にスクリーンを張り、ドキュメンタリー映画の試写室として開放。
- ※原発や沖縄の基地問題などに関心のある市民が利用。



宿泊

事例
2-2

- ・体験入居
 - ※親元から離れて暮らすためのトレーニング。
- ・レスパイトサービス
 - ※緊急預り(述べ15人程度/月)。
- ・旅行者(自転車やヒッチハイク等)の宿
 - ※雨天時などテント泊が困難と思われる人たちを誘い、宿泊させている(年間3~4組程度)。障がい者と触れ合ったことのない人たちがほとんどで、共生型住宅の取り組みや理念をお話しして、居住者との交流をお願いしている(無料)。



礼状

事例
2-3



網走ではお世話になりました。おかげさまで
牛、くりとすることができ前に進めました。また観光
地へも色々と案内として頂き嬉しかったです。
障がいを持つ人と交流持つ機会が少ないので
同じ屋根の下で暮らすことができて学びになりました。
色々な経験をありがとうございました。 2016.11.25
坂ランナー いっすー

平成22年10月開設

ふれあい@夢の樹ホーム 呼人

共生型住宅
2

1



北村ハウス跡地に建設

2



1. 外観(左側の黒壁)
2. サロンスペース
3. うどん喜多夢楽
4. 厨房
5. 店内

※入居者2人(家事は他
法人からの支援)

3



寄贈者北村寛子さんの名を残す
うどん喜多夢楽

4



5

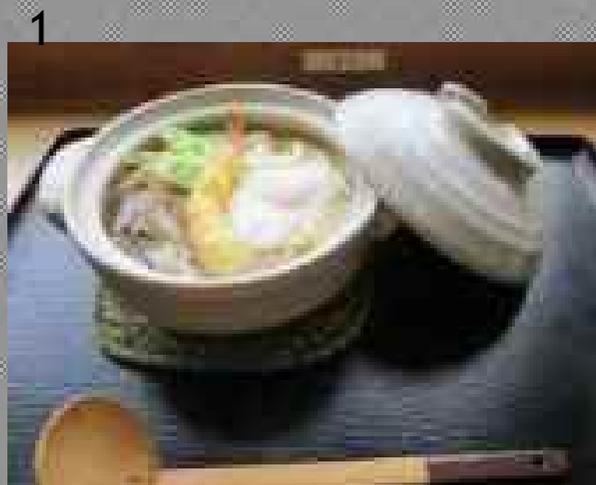


美味しいお店

「うどん喜多夢楽」 営業:毎週日曜日のみ

「ブーランジェリー・コパン」 営業:月～金曜日

ちょっと
CM



1,200円



900円



800円



1. 鍋焼きうどん
2. かけ・ざるの HALF & HALF とかき揚げ
3. 肉うどん
4. コパンスタッフ (利用者)
5. 店内(一部)

共生型WS

平成24年2月10日

事例
3-1

於：うどん喜多夢楽

協力：社団法人北海道総合研究調査会(HIT)
東京農業大学オホーツクキャンパス

- ・参加者：呼人町内会・アーティスト・商店主・道内のNPO法人(3)・大空町社協・東京農業大学・ホテル支配人・主婦 他 24人
- ・テーマ：もしこの場所を自由に使うことができたら、あなたは何をしたいですか？
(そのことに係る経費は考慮しなくてOK！)
- ・駄菓子屋・子育てサークル・落語会やコンサートのイベント・配食サービス・居酒屋・喫茶店・漬物教室・絵画教室・お料理教室・食品加工場・敬老会・町内会の会合・困りごと相談所・ワンデイシェフ(日替わり調理人)・麻雀荘・碁会所・映画上映会・卓球場・筋トレ教室・ヨガ教室・除雪隊・おせっかい爺さんの会・屋外野菜(山菜)市場 等
- ・それでも出た質問：誰がやるの？
お金はあるの？



財源はどうする？

事例
3-2

- ・制度ごとに分かれている財源の組合せや整理
 - ※厚労省・国交省・経産省・総務省⇒新たな制度設計
 - 例：そもそも高齢者と障がい者に係る予算が縦割り
 - ：同じ場所に健常児が混在しているのはダメと指導された
 - ：自立準備ホーム(地域生活定着支援)の登録ができない
 - ：民泊施設(airbnb)登録ができない
- ・財源は自主事業の収益で賄う
 - ※ワーカーズ・コープのような取組
 - 例：一人ひとりが事業主になり、共同で責任を負う
 - ：社会的企業(コミュニティ・ビジネス)の研究

共生型の定義は？

- ・地域づくりなのか、福祉優先なのかの理解と整理
 - ※施設型なのかエリアなのか
 - ※柔軟で多様な仕組みの組合せ⇒WIN-WINの関係
- ・誰が担うのか？
 - ※高齢者や障がい者(逆デイの発想)
 - ※こども(こども駄菓子屋)
 - ※最も必要なのはミッションの共有
 - ※NPO法人夢の樹オホーツクは事務局

地域のニーズは？

事例
3-4

・地域住民の理解と参加が不可欠

例：北広島団地地域交流ホーム「ふれて」

- ・地域の人材15人を狙い撃ちして設立準備を開始
- ・開設後は解散することを約束
- ・上下関係のない組織づくり
- ・持ち寄り居酒屋 ⇒ 除雪隊

例：札幌市清田区里塚・美しが丘地区センター

- ・平成16年～17年 建設ワークショップ(地域住民・構想案とイメージ図)
- ・平成18年 建設検討委員会(公募・基本設計案)
- ・平成18年～19年 運営を考える会(公募・運用・管理方法)
- ・平成20年4月 オープン

自家用有償旅客運送

福祉有償運送

事例

4-1

・利用対象者：障害手帳保持者

(登録が必要)

：要介護認定者

：要支援認定者

：内部障害・知的障がい

・運転者：2日間の運転講習受講と実技試験

(登録が必要)

※夢の樹オホーツク全スタッフ(17人)受講済

・利用料： 移動時間 + ガソリン代 + 経費

1時間800億縁 + 15円/1km + 実費

例：自宅から10kmの内科に通院

移動時間 + ガソリン代 + 経費

15分200億縁 + 150円 + 0円

福祉有償運送の課題

- ・対象者の多様性にも対応すること
 - ※明らかに対象者であるにも関わらず未認定。
 - ※認定を拒む方。
 - ※ボーダーの方。
 - ※生活困窮者にも対応。
- ・高齢ドライバーの交通事故
 - ※免許証を自主返納したときの代替手段。
- ・担い手不足
 - ※法人スタッフ以外に資格を持った運転者がいない。
- ・登録不要の移動サービス
 - ※これからの更なる課題。